

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果
概要と指導の改善策



平成30年11月30日
旭川市立愛宕中学校

○ 調査結果の分析に当たって

本年4月17日に実施しました「平成30年度全国学力・学習状況調査」について、この度、本校の結果の概要と改善策をまとめました。

結果の分析に当たっては、国立教育政策研究所が作成した解説資料等を参考にしながら、旭川市教育委員会の本調査結果の公表についての考え方を踏まえ、次のとおりといたしました。

■教科に関する調査の結果分析

- 学校としての平均正答率が80%以上のものを「成果」、
 // // 60%以上80%未満のものを「おおむね達成」、
 // // 60%未満のものを「課題」 として整理。
- 課題の中から特に平均正答率が低く指導の改善が必要であるものを抽出し、その出題の趣旨から生徒に身に付けさせなければならない力を分析。
- 具体的な授業場面における改善方策を明示。

■生徒質問紙調査の結果分析

- 質問項目に「している」「どちらかといえばしている」など、肯定的な回答をした生徒の割合が80%以上のものを「肯定的な回答が高い割合を示した質問項目」、
- 質問項目に「している」「どちらかといえばしている」など、肯定的な回答をした生徒の割合が60%未満のものを「肯定的な回答が低い割合を示した質問項目」 として整理。

■教科に関する調査の結果分析

国語A

(実生活に不可欠であり学習を進める上での基礎・基本となる知識・技能を観点とした問題)

<国語A 出題の趣旨等及び成果と課題>

【成果が見られた設問（平均正答率が80%以上のもの）】

- 1- 話の論理的な構成や展開などに注意して聞く
- 2- 書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する
- 3- 文脈の中における語句の意味を理解する
- 3- 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する
- 4- 段落相互の関係に注意し、読みやすく分かりやすい文章にする
- 7- 語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉える
- 7- 接続詞の働きについて理解する
- 8-1 文脈に即して漢字を正しく書く 「紙をひもでタバねる」
- 8-1 文脈に即して漢字を正しく読む 「模型を作る」
- 8-2 文脈に即して漢字を正しく読む 「池の水が凍る」
- 8-3 文脈に即して漢字を正しく読む 「技を磨く」
- 8-ア 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う
 - 適切な語句を選択する（立場の異なる両者の主張は終始一貫して変わらず、最後まで結論が出なかった）
- 8-イ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う
 - 適切な語句を選択する（魚の中には群れを作って泳ぐ習性をもつものがある）
- 8-ウ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う
 - 適切な敬語を選択する（先生が私たちに大切なことをおっしゃった）
- 8-キ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う
 - 適切な語句を選択する（姉はみんなと一緒に運動をすることが好きだ。一方、妹は一人で本を読むことが好きだ）
- 8-1 慣用句の意味を理解する
- 8-1 古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉える
- 8-3 古典に表れたものの見方や考え方を理解する

【おおむね達成していた設問（平均正答率が60%以上80%未満のもの）】

- 2- 伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く
- 4- 書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する
- 5- 段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる
- 5- 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える
- 6- 話合いの話題や方向を捉える
- 6- 話合いの話題や方向を捉えて的確に話す
- 8-2 文脈に即して漢字を正しく書く 「紙をひもでタバねる」
- 8-3 文脈に即して漢字を正しく書く 「舞台のマクが上がる」
- 8-オ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う
 - 適切な語句を選択する（意見の折り合いをつける）

8三カ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う

ー適切な語句を選択する（わたしが健康になったのは、ひとえに母のおかげです）

8五 行書の基礎的な書き方を理解して書く

8六2 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む

【課題が見られた設問（平均正答率が60%未満のもの）】

8三工 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う

ー適切な語句を選択する（彼はせきを切ったように話し始めた）

8四2 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く

◎課題が見られた設問について

8三工（正答率 31.9%）

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1)イ(ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。

〔第1学年〕伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1)イ(エ) 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。

〔第2学年〕伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1)イ(ア) 話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること。

〔第2学年〕伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1)イ(イ) 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。



【指導の改善に向けて】

- ・「彼はせきを切ったように話し始めた」などの「せきを切る」などの慣用句等について、意味が分からないものについては辞書で調べる習慣をつけさせる。
- ・上記の慣用句等を用いて、適切に文章を作成させる学習活動を一層充実する。

◎課題が見られた設問について

8四2（正答率 32.5%）

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1)イ(ウ) 文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えること。



【指導の改善に向けて】

- ・文の成分の用語や関係の意味を理解する学習を一層充実させる。
- ・与えられた一文を3つの要素（主語、「誰（何）」、「どのようなこと」）に分ける学習活動を行う。
- ・主語を明確にして書く学習活動を一層充実させる。

国語B

(知識・技能を実生活の中で活用する能力を観点とした問題)

<国語B 出題の趣旨及び成果と課題>

【成果が見られた設問 (平均正答率が80%以上のもの)】

- 2一 質問の意図を捉える
- 2二 話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する
- 3一 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する

【おおむね達成していた設問 (平均正答率が60%以上80%未満のもの)】

- 1二 文章の構成や展開について自分の考えをもつ
- 2三 全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す
- 3二 登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる

【課題が見られた設問 (平均正答率が60%未満のもの)】

- 1一 文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える
- 1三 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く
- 3三 相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く

◎課題が見られた設問について

1一 (正答率 50.3%)

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕読むこと

イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること

【指導の改善に向けて】

- ・文章の構成を捉え、序論、本論、結論に分ける学習活動を行う。
- ・序論、本論、結論には、それぞれに中心となる文があることについて、接続する語句に注目させながら、一層の理解を図る。
- ・中心となる文に着目し、本論の中心となる部分を押さえ要約する学習活動を一層充実する。

◎課題が見られた設問について

13 (正答率 19.0%)

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕書くこと

ウ 事実や事柄，意見や心情が相手に効果的に伝わるように，説明や具体例を加えたり，描写を工夫したりして書くこと。

〔第1学年〕読むこと

イ 文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見などを読み分け，目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること



【指導の改善に向けて】

- ・新聞や白書など，モデルとなる文章を示し，情報の取り上げ方や書き方を確認し，取り上げる事柄を効果的に伝える工夫点について理解させる。
- ・学習した情報の取り上げ方や工夫点を生かして書く学習活動を一層充実する。
- ・自分の書いた文章を生徒同士で読み合い，文章の構成や書き方を工夫した点について交流したり，助言し合ったりする学習活動を一層充実する。

数学A

(実生活に不可欠であり学習を進める上での基礎・基本となる知識・技能を観点とした問題)

<数学A 出題の趣旨及び成果と課題>

【成果が見られた設問（平均正答率が80%以上のもの）】

- 1 (1) 数直線上に示された負の整数を読み取ることができる
- 2 (2) 単項式どうしの除法の計算ができる
- 2 (3) 文字式に数を代入して式の値を求めることができる
- 3 (2) 簡単な比例式を解くことができる
- 3 (3) 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる
- 5 (2) 半円を、その直径を軸として回転させると、球が構成されることを理解している
- 5 (3) 見取図、投影図から空間図形を読み取ることができる
- 6 (2) 多角形の内角の和の性質を理解している

【おおむね達成していた設問（平均正答率が60%以上80%未満のもの）】

- 1 (2) 絶対値の意味を理解している
- 1 (3) 指数を含む正の数と負の数の計算ができる
- 3 (1) 方程式を解く場面における等式の性質の使い方について理解している
- 3 (4) 着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくること
ができる
- 4 (1) ひし形は、線対称な図形であり、点対称な図形でもあることを理解している
- 4 (2) 折り目の線の作図と角の二等分線の関係を理解している
- 4 (3) 回転移動した図形をかくことができる
- 5 (1) 空間における平面と直線との位置関係（面と辺が平行であること）を理解している
- 5 (4) 四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の $1/3$ であることを理解
している
- 6 (1) 三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している
- 7 (1) 2つの三角形が合同であるために必要な辺や角の相等関係について理解している
- 7 (2) 長方形やひし形が平行四辺形の特別な形であることを理解している
- 9 (1) 比例 $y=ax$ における比例定数 a の意味を理解している
- 9 (3) 反比例について、グラフと表を関連付けて理解している
- 11 (1) 一次関数 $y=ax+b$ について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めることができる
- 11 (2) 一次関数 $y=ax+b$ について、 a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解している
- 13 連立二元一次方程式の解を座標とする点は、座標平面上の2直線の交点であることを理解し

ている

14(1) 最頻値は、資料の中で最も多く出てくる値であることを理解している

14(2) 与えられた資料から中央値を求めることができる

15(2) 表などを利用して、確率を求めることができる

【課題が見られた設問（平均正答率が60%未満のもの）】

8 証明の必要性と意味を理解している

9(2) 与えられた比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる

12 一次関数の意味を理解している

◎課題が見られた設問について

8（正答率 44.2%）

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕B 図形

(2) 図形の合同について理解し図形についての見方を深めるとともに、図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ、論理的に考察し表現する能力を養う。
イ証明の必要性と意味及びその方法について理解すること。



【指導の改善に向けて】

- ・問題文中から証明に必要な情報を読み取り、何が仮定で何が結論なのかを明確にしてから証明することについて理解させる。
- ・結論を導き出すために、何を示せばよいのかなど、証明の流れの見通しを持たせる指導の工夫を行いながら授業展開する。

◎課題が見られた設問について

12（正答率 36.2%）

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕C 関数

(1) 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。
ア事象の中には一次関数としてとらえられるものがあることを知ること。



【指導の改善に向けて】

- ・ともなって変化する数量を自ら見だし、その2つの数量の変化の様子を調べたり、表現したりする活動を充実させる。
- ・言語活動を充実させ、変化の様子の特徴を見いだす時間を確保する。見いだした特徴が同じでも生徒によって表現が異なる場合もあるので、全体で確認し共通理解しながら指導を進める。

数学B

(知識・技能を実生活の中で活用する能力を観点とした問題)

<数学B 出題の趣旨及び成果と課題>

【成果が見られた設問 (平均正答率が80%以上のもの)】

- 2(1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる
- 3(2) グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる

【おおむね達成していた設問 (平均正答率が60%以上80%未満のもの)】

- 2(3) 3つの計算の順番を入れ替えたときの計算結果を数学的に表現することができる
- 3(1) 事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈することができる

【課題が見られた設問 (平均正答率が60%未満のもの)】

- 1(1) 与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる
- 1(2) 与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができる
- 1(3) 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる
- 2(2) 事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる
- 3(3) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる
- 4(1) 証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだすことができる
- 4(2) 発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直すことができる
- 4(3) 付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる
- 5(1) 与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる
- 5(2) 里奈さんの計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる

◎課題が見られた設問について

3(3) (正答率 11.6%)

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕C 関数

- (1) 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。
- イ一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解すること。
エ一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明すること。

【指導の改善に向けて】

- ・標高と気温の関係を表すデータなど、授業において実際のデータを観察する場面を取り入れ、表やグラフに表す活動を通して、理想化・単純化する過程を経験できるようにする。
- ・授業で実際のデータを用い、数学の知識・技能、見方や考え方を活用して、問題を解決する学習活動を一層充実する。
- ・与えられた方法を用いて解決させるだけでなく、生徒が数学を活用する方法を見いだす学習活動を工夫するとともに、その方法について、グラフや式などの「用いるもの」と「その使い方」について説明する場面を設定する。

◎課題が見られた設問について

5(2) (正答率 9.8%)

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕A 数と式

(1) 具体的な事象の中に数量の関係を見だし、それを文字を用いて式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の四則計算ができるようにする。
イ文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明できることを理解すること。
ウ目的に応じて、簡単な式を変形すること。



【指導の改善に向けて】

- ・事象に対して具体的な数を用いて調べて予想し、どのようにその数を求めればよいかを考察することで立式につなげる活動を充実させる。
- ・文字を使って数量を表すことや式の計算等、学年に応じて習熟に努め、文字を使うことのよさを体得させるとともに日常の活動から途中の計算過程をきちんと記述できるようにする。

理科
(知識と活用を一体的に問う問題)

<理科 出題の趣旨及び成果と課題>

【成果が見られた設問 (平均正答率が80%以上のもの)】

- 2(1) 無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる
- 2(2) 濃度が異なる食塩水のうち、濃度の低いものを指摘できる
- 2(3) 「アサリが出した砂の質量は明るさに関係しているとはいえない」と考察した理由を指摘できる
- 3(2) 太平洋高気圧(小笠原気団)の特徴についての知識を身に付けている
- 4(1) ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘できる
- 6(1) 電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識を身に付けている
- 6(2) 実験の結果を示した表から電流の値を読み取ることができる
- 6(3) 豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力との関係を指摘できる
- 7(3) 初期微動継続時間の長さや震源からの距離の関係の知識と音の速さに関する知識を活用できる
- 8(1) アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けている
- 8(2) 発熱パックに入っているアルミニウムが水の温度変化に関係していることを指摘できる
- 8(3) 探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見だし探究を深めようとしている。アルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見いだすことができる
- 9(1) 植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けている

【おおむね達成していた設問 (平均正答率が60%以上80%未満のもの)】

- 1(2) テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明することができる
- 2(4) 1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる
- 5(1) 神経系の働きについての知識を身に付けている
- 5(2) 反応の時間を測定する装置や操作を刺激と反応に対応させた実験を計画できる
- 7(2) 緊急地震速報を受け取ってからS波による揺れが始まるまでの時間が最も長い観測地点を指摘できる

【課題が見られた設問 (平均正答率が60%未満のもの)】

- 1(1) 光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用できる
- 2(2) 濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる
- 3(1) 風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる
- 3(3) シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる
- 4(2) 炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる
- 4(3) 化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる
- 6(2) オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる
- 7(1) 地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識を身に付けている
- 9(2) 植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる

◎課題が見られた設問について

- 4(2) (正答率 40.5%)

■学習指導要領における領域・内容

第1分野(4)化学変化と原子・分子

イ化学変化 (1) 酸化と還元

酸化や還元の実験を行い、酸化や還元が酸素の関係する反応であることを見いだすこと。



【指導の改善に向けて】

- ・酸化や還元に関する実験を様々な条件の下で行い、酸化や還元が酸素の関係する反応であることを実感させ理解を深める学習活動を一層充実する。
- ・酸化や還元に関する実験を行い、質量や性質の変化を調べ、その実験結果から原子や分子のモデルを用いて酸化について説明する学習活動を一層充実する。

◎課題が見られた設問について

9(2) (正答率 25.2%)

■学習指導要領における領域・内容

第2分野(4)気象とその変化

ア気象観測 (7) 気象観測

校庭などで気象観測を行い、観測方法や記録の仕方を身に付けるとともに、その観測記録などに基づいて、気温、湿度、気圧、風向などの変化と天気との関係を見いだすこと。



【指導の改善に向けて】

- ・いろいろな植物の葉、茎、根のつくりの観察を行い、その観察記録に基づいて、葉、茎、根のつくりの基本的な特徴を見いだすとともに、それらを光合成、呼吸、蒸散に関する実験結果と関連付けて整理する学習活動を一層充実する。
- ・自然の事物・現象を科学的に探究する上で、「原因として考えられる要因」を全て指摘し、問題解決の知識・技能を活用して、条件を制御した実験を計画すること。

■生徒質問紙調査の結果分析

【肯定的な回答が高い割合を示した質問項目（先頭は質問項目の番号を示す）】

- 4 学校の規則を守っていますか。
- 5 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- 6 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- 7 毎日朝食を食べていますか。
- 9 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。
- 11 家で、学校の宿題をしていますか。
- 26 テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）。
- 28 数学の勉強は大切だと思いますか。
- 30 数学ができるようになりたいと思いますか。
- 36 数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。
- 37 今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか。
- 41 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか。
- 46 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか。
- 51 今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか。

【肯定的な回答が低い割合を示した質問項目】

- 10 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。
- 20 今住んでいる地域の行事に参加していますか。
- 21 地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか。
- 22 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。
- 24 地域の大人（学校や塾。習い事の先生は除きます）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか。
- 27 数学の勉強は好きですか。
- 32 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。
- 42 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。
- 43 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
- 44 将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか。
- 45 理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか。
- 48 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。
- 50 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。
- 53 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。

【その他】

- 14 平日に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師を含む）
→2時間以上 38.1%（全国平均は36.4%）
→全くしない 9.2%（全国平均は4.9%）
- 11 放課後に何をして過ごすことが多いですか（複数回答可）
→家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている。 89.6%（全国平均は77.3%）
- 17 週末に何をして過ごすことが多いですか（複数回答可）
→家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネッ

トをしたりしている。 85.9% (全国平均は80.1%)

※北海道教育委員会が目安として示している平日の家庭学習時間は中学校3年生で100分以上、平日にメディア(ビデオ・DVD、ゲーム、インターネットなど)に触れる時間は1日2時間以内としている。

以下は、旭川市教育委員会が推進する学力向上策である「授業改善」、「落ち着いた学習環境づくり」、「望ましい習慣づくり」の3つのカテゴリーと、関連する生徒質問紙調査の質問番号の一覧です(国立教育政策研究所では、質問番号を8つに分類)。

カテゴリー	国立教育政策研究所の分類	質問番号
授業改善	1：主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	(52) (▼53) (54)
	2：学習に対する興味・関心や授業の理解度等(理科)	(38) (39) (40) (○41) (▼42) (▼43) (▼44) (▼45) (○46) (47) (▼48) (49) (▼50) (○51)
	3：学習に対する興味・関心や授業の理解度等(数学)	(▼27) (○28) (29) (○30) (31) (▼32) (33) (34) (35) (○36) (○37)
落ち着いた学習環境づくり	4：規範意識、自己有用感等	(1) (2) (3) (○4) (○5) (○6)
望ましい習慣づくり	5：学習習慣等	(▼10) (○11) (12) (13) (14) (15)
	6：基本的な生活習慣等	(○7) (8) (○9) (16) (17) (18)

※ 質問番号の前の○は肯定的な回答が高い割合を示した質問項目、▼は肯定的な回答が低い割合を示した質問項目を示す。

○上記の3つのカテゴリーに当てはまらない質問項目

その他	7：地域や社会に関わる活動の状況等	(19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26)
	8：各教科の調査時間の適切性	(55) (56) (57) (58) (59)

■生徒質問紙調査の結果から

生徒質問紙調査の結果から、朝食を毎日食べたり、毎日同じくらいの時刻に起きたりするなどの習慣は身に付いており、家で学校の宿題にも取り組んでいる様子が見えます。また、人の役に立つ人間になりたいと思うなど、将来への前向きな意識をもつとともに、学校の規則を守り、さらには、いじめはどんな理由があってもいけないと思うなど、規範意識や人を思いやる心が育っている様子が見えます。

一方、家庭で学校の宿題を行う一方で、自ら計画を立てて勉強するなどの主体的な家庭学習の習慣が身に付いていないことや、平日の放課後や週末に、家でテレビやビデオ・DVD、ゲーム、インターネットなどに多くの時間を費やしているといった、本校の生徒の状況も浮き彫りになっています。

■学力向上に向けた今後の取組

■学力向上に向けた今後の取組

これらの調査結果に基づき、国語科、数学科、理科においては、学力調査を受けた第3学年の生徒に対し、十分に身に付いていないと思われる学習内容について、日常の授業を通じて、再度指導を行ってきました。

また、今年度の生徒質問紙調査の結果から見られた課題は、昨年度の調査結果の課題とほぼ共通していることから、第3学年生徒だけではなく本校の生徒全体の課題として捉え、その改善に向けて全校的に取り組む必要があると考えています。

こうしたことから、本校では、学力向上に向け、次の取組を行ってまいります。

1 「主体的、対話的で深い学び」を実現する授業づくり

本校では、研究主題「学ぶ意欲を高め、確かな学力の育成を目指した学習指導の在り方～主体的、対話的で深い学びを通して～」の下、生徒の学びへの必要感を高める学習内容や生徒同士の「学び合い」などの協同的な学習の形態、生徒の学びを確実なものにする学習のまとめなど、指導方法の改善・工夫に努めています（3年次研究の1年目）。

具体的には、今年度については、教員全員がそれぞれ2回程度の授業を公開し、研究主題に基づく互いの実践を交流し合う機会を充実します。また、11月中旬には、旭川市教育委員会の専門職員（指導主事）を招聘し指導・助言を受けることにより、本校の取組の成果と課題を明らかにしながら、日々の授業の一層の改善・充実に努めてまいります。

2 落ち着いた学習環境づくり

学校において、生徒が安心して授業に臨み学習内容を確実に身につけることができるようにするためには、規律を定着させ落ち着いた雰囲気の中で学ぶことができる環境を整えることが大切です。そのために、本校では、教職員間で学習のきまりについて共通理解を図るとともに、年度当初から生徒への指導を継続してまいりました。

今後も、学習規律の一層の確立に努めるとともに、学級経営を重視し、学級活動や学校行事等の特別活動を通じて、互いのよさや違いを認め合う望ましい集団づくりに努めてまいります。

3 基本的な生活習慣（学習習慣を含む）の確立

学力の向上はもとより、生徒が夢や目標を見つけ、その実現に向けて努力する態度を培うためには、規則正しい生活習慣や学習習慣を身に付けることが大切です。しかしながら、本校生徒については、テレビやテレビゲーム、携帯電話・スマートフォンなどのメディアの管理や主体的な家庭学習習慣において課題が見られることから、その改善が急務となっています。生活習慣や学習習慣は、一定の時間をかけて形成されていくことや、一度習慣化されたことを変えることは容易ではないことから、その改善のためには、家庭との緊密な連携とともに、校区小学校との共通理解に基づく一貫した指導が必要であると考えます。

現在、本校では各学年において、生徒の実態を踏まえ、基本的な生活習慣（学習習慣）づくりのための具体的な取組を進めてきており、今後、成果・課題の検証と取組の一層の充実を図ってまいります。

また、校区の愛宕小学校及び愛宕東小学校とは、定期的に学校課題について情報共有する機会をもっておりますが、今後、本校区の児童・生徒の生活習慣（学習習慣）における課題の改善に向けて、9年間を見通した一貫・連携した指導の在り方について検討し、校区小学校との具体的な取組を進めてまいります。